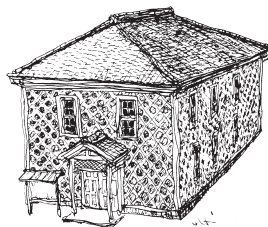


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

まつうらよしみつ
松浦良充

「学修者本位」の大学教育をつくる

現在、グローバル化への対応が、世界の大学・高等教育の重点課題となっています。さらに、情報通信やAIをはじめとする急激な技術革新によって到来する「データ駆動型社会」では、知の創生や再構成、伝承のあり方が大きく変貌します。研究・教育活動における国境の存在は、ますます希薄になっています。では大学のグローバル化とはなんでしょうか。留学生の送り出し・受け入れ人数の拡大、あるいは英語で行われる授業数の増加をはかることでしょうか。研究成果を世界の有力ジャーナルに発信し、大学ランキングの上昇をめざすことでしょうか。いずれも重要なことですが、それらは指標や形式にすぎません。大切なのは、大学が授与する学位の国際的な通用性を質的に担保することです。卒業・修了者が、取得した学位にふさわしく、どのような能力を身につけ、何ができるようになっているのか、それを世界的な水準に準拠して保証することです。大学のパフォーマンスは、卒業・修了者の能力によって証明されるのです。学位が能力証明となるために欠かせないのは、大学における

各学位課程を「学修者本位」の視点から拡充・再構築することです。ただし学修者本位とは、学生が学びたいことを勝手に学んでいけばよい、ということではありません。大学および学部・研究科が、学位授与・教育課程編成・入学者選抜の方針を策定し、何をどのように修得させ、どのような力を身につけさせるのかを明示することが重要です。もはや、個々の教員が教えることを教えていけばよい、という時代は終わりました。学生は、学位を取得することでどのような力を身につけて世界や社会に貢献できるのかを意識しつつ、自ら学ぶことになります。学生の広く深い学びを、大学が組織的に促進する革新が必要です。2022年4月、全学的組織として、大学教学マネジメント推進センターが発足しました。各学部・研究科が、その学位課程を学修者本位の観点から点検・整備・強化するために、相互に討議しつつ必要な施策を立案・推進する要となる組織です。慶應義塾の大学教育が、より高度な世界水準の質を誇るためには、全塾的な知見の結集と社中一致の協力的体制が不可欠です。